

■ 女児(9歳)の低体温がホメオパシーで改善したケース

日本ホメオパシーセンター大阪本部
JPHMA 認定ホメオパス No. 0899
ZEN メソッド修得認定 No. 0248
富田 沙織 (とみた さおり)

[演題]

女児(9歳)の低体温がホメオパシーで改善したケース

[具体的内容]

幼いころから、保育所に通うため、些細なことでも薬を多用してきた。
3歳ころから、平熱が36度程度しかないことに気付く。
体質かと放っておいたが、5歳頃には、36度に届かなくなった。35度台が平熱。
虚弱とまでは言わないが、風邪などの感染症にかかりやすい。
小学校にあがってから、疲れやすく、学校を休むことが増えた。
授業中もぼーっとしているのか、学習も遅れがち。
共働きで、仕事を休めないで、子供が不調になるとすぐに病院を受診し、薬を服用させてきた。
アレルギーなのか、小学生になってから夜中にたびたび咳込んで、眠りの質が良くない。鼻水も多い。
子供に元気はつらつとしていてほしい、とのこと。

[タイムライン]

妊娠中 異常なし。
逆子が治らず、帝王切開で出産。
主に母乳で育てる。ミルクも混合。
1歳 母親が職場復帰。職場の託児所に入る。主にベビーフードのお弁当を持参。
3歳 地元の保育所に入る。給食。
6歳 小学校入学。

[予防接種歴]

その当時、母子手帳に記載のあるものは、定期接種も任意接種も大抵受けている。インフルエンザ、ヒブ、肺炎球菌も。

[薬歴]

ステロイド、抗生剤など。

[相談会 1回目 2015年2月]

子供の虚弱を薬に頼らず治したいと母親が考え、相談会に。相談会に来たのは母親のみ。
母親は看護師だが、薬の多用に疑問を持っている。しかし、家族である夫も、近所に住む祖父母も、仕事があるので、子供が調子を崩し始めると、薬をすぐに服用させようとするに困っている。
鼻水、咳で近所の小児科を受診するが、いつも抗生物質を処方され、しかし症状が楽にならないから薬を変えてほしいと言っても、続けた方が良くいと言われ、しぶしぶ飲ませている。
看護師であることから、抗生剤の多用が良くないことは、認識しているとのこと。
子供の症状で一番気になることは、平熱が35度台と低体温であること。
他は、風邪を引くことが多いこと。
鼻水が多いこと。

咳が続くこと。
症状が長く続くこと。
繰り返す中耳炎に悩まされていること。
今、下痢が続いていること。
子供の受け答えがフワフワしていて、勉強に集中できていない様子があるので心配。
子供は弱気で、友達関係でも、割とすぐに落ち込み、不安なのかよく泣く。
体温が低いからか、疲れやすい。

[TBR レパトライゼーション ①]

581 咳全般
577 流れ出るコリーザ
#1702 寒冷から悪化
#1711 冷えた後、風邪を引く傾向
92 内耳
685 外部の冷たさ
#1011 内部の炎症
421 下痢全般
#1158 弱さ、だるさ、衰弱
上位5つ(欠落無し)上から Puls. Nux-v. Rhus-t. Sep. Phos.

[処方①]

随時 φサポート腎臓 +Antibiot-c-d. 30C +St-C-D. 30C
朝 アルポ Phos. LM1
夜 アルポ Tub-k. LM2 +Puls. LM3
薬の影響を考慮し、TBR より選出された上位のレメディーを処方。
子供の様子から、メインレメディーを Puls. とする。

[根拠]

Puls. RA165~の耳の症状、585~の、たくさんの鼻、咳に関する症状。
RA 前文「おっとりとした無気力の人には特によく合い」など。
飲むのに無理がないよう、朝晩の処方を希望された。
随時の物は、学校に持って行く水筒のお茶に混ぜてもらい、飲んでもらう。
症状がきついときは、症状の状態を聞き、基本キットのレメディーも併用してもらった。

[アドバイス]

薬を使うのが当たり前の生活だったのだから、急に薬をやめることに抵抗がある家族を説得することに、けんかしてまでの労力を割かないように、とお伝えした。
ホメオパシーでも、自然療法は根気と時間がかかること。
家族の安心のためには、他の療法を併用することも大事であること。
徐々にではあるかもしれないけれど、効果はあるので、焦らず時間をかけて、無理なく症状を排出できるように心身や食事などの環境を整えていくことも大事であること。
などをお話しした。

[経過 約2か月後]

下痢はおさまった。
鼻水、咳は相変わらず気になる。

[相談会 2 回目 2015 年 4 月]

夫（父親）も子供の保育所の送り迎えや、病院通いをしてくれるので、薬を飲まないことに反対してくる。

悪化してくると、どちらが休むかでけんかになる。悪化させないために、薬を早めに飲ませたがる。自分（母親）も、なるべく薬は飲ませたくないとは思いますが、仕事に行けなくなるのも困るので、少し減らして薬を飲ませている。

レメディー、チンクチャーはしっかり飲ませている。

鼻水は常に出ている。粘っこい感じ。

鼻水がのどに流れているのか、痰がよく出ている。

夜はガラガラした呼吸。息苦しくないか心配。

夜中時々起きる。咳のせいか、トイレかは不明。どちらでもありそう。

便秘なのか、あまり出ていないように思う。コロコロ便。

身体が冷えると、すぐに調子を崩す。

外遊びから帰ると、咳、鼻水が出る。

風邪を引きやすく、中耳炎になる。

中耳炎で、受診すると必ず抗生物質を 2 週間分出される。

近所では、そこしか耳鼻科がなく、仕方なく受診している。

花粉症とは言われないが、時期的に何かのアレルギーがあるのではないかと思う。

[TBR レパトライゼーション ②]

#1063 アレルギー

589 粘液産生

572 ガラガラ鳴る呼吸

581 咳全般

#1693 真夜中より後に悪化

#1702 寒冷から悪化

577 流れ出るコリーザ

434 節だらけの便

420 便の硬さからの便秘

1 位 Nux-v. 2 位 Kali-c. 3 位 Caust. 4 位 Sulph. 5 位 Merc.

[処方②]

随時 サポート Φ 肝臓 +Ars-i. 12X +Caust. LM1 +Merc. LM1

朝 アルポ +Kali-c. LM3 +Sulph. LM3

夜 アルポ +Nux-v. LM5 +Tub-k. LM4

身体の解毒を促したいので肝臓をサポート。

メインレメディーは 1 位の Nux-v.

ミネラルは上位 4 つを選出。

マヤズムは、咳が続いていることから Tub-k. を選出。

[根拠]

Nux-v.

RA151～、耳、耳の痛みの症状

RA500～505「固い便を排出する」などの便秘の症状

RA625～鼻風邪、咳の症状

RA1125～冷え、悪寒の症状

[経過② 約 2 か月後]

体温が少しあがって、36度に届くことが多くなってきた。
それでもまだ低いので、37度の発熱でも、とても辛そうにしている。

[相談会 3回目 2015年6月]

便は普通に出ているよう。

手足の指の皮が薄くめくれる。痒い様子。水虫なのかと心配。

鼻水、咳は相変わらず、少し寒くなったりするとよく出ている。昼間は気にならないが、朝晩は咳が気になる。

咳で眠れないこともまだある。

風邪、中耳炎にかかる回数が減った。

毎週のように病院を受診していたのに、月1回くらいになっている気がする。

体力がついたのか、以前よりも外遊びをしても、元気そうにしている。

咳、鼻水が出ていても、それ以上は悪化していないように思う。

症状が気になるときは、本で調べたりして、基本キットのレメディーも併用した。

薬は、飲ませる量を大分減らせるようになった。

夫は相変わらず飲ませたがるが、飲ませなくても大丈夫と思ったら、飲ませたふりをすることもできるようになった。

実際、飲ませなくても、レメディーだけでも大丈夫なことが多くなってきたと思える。

どうしてもおときは薬を使っているけれど、薬自体を飲む量は減っていると思う。

新学年になり、担任の先生が厳しい人で子供との相性が合わず、子供はますます萎縮しているようだ。家でも感情の起伏が激しいと思う。

[TBR レパトライゼーション③]

#1702 寒冷から悪化

#1687 朝に悪化

#1691 夜に悪化

#582 吐しゃ物のある咳

#589 気道分泌物（鼻汁および痰）

#625 水っぽい鼻汁

#777 精神一動揺している

#779 精神一不安

#1063 アレルギーなど

1位 Nux-v. 2位 Phos. 3位 Cham. 4位 Sep. 5位 Chin. (欠落なし)

[処方③]

随時 Φサポート抗生 +Cham. LM2 +Ars-i. 12X

朝 アルポ +Phos. LM3

夜 Φサポート骨 +Tub-b. LM4 +Nux-v. LM5

抗生剤を使っていること、最近歯の生え変わりが進んでいることから臓器のサポートシンクチャー2種類を選出。

メインレメディーは1位の Nux-v.

ミネラルは2位の Phos.

マヤズムは皮膚の問題が出てきていることから Tub-b. を選出。

[根拠]

Nux-v.

RA1230～、落ち着きのなさ、不安、立腹の症状

RA31～、1141～など、朝に悪化する症状
RA50、55 など、夜に悪化する症状
前回同様、たくさんのか、鼻水の症状

[経過③ 約半年後]

体温が 36 度を下回らないようになった。

以前なら 37 度の熱でへトへトになっていたが、37 度くらいではしんどがらなくなった。

38.5 度まで熱が上がるようになった。解熱剤も使ったが、基本キットの Ferr-p. だけでも大丈夫だったかなと、薬への依存の気持ちが太分薄らいでいることに気付いた。次に熱を出したらレメディーだけで乗り越えようと思う。

咳、痰、鼻水は寒くなってきてから、またよく出るようになってきた。

咳で眠れないこともある。

日中が元気なので、咳は気になるものの、それほど不安に感じない。

手の指の皮、足の裏の皮がめくれて痒い様子。

ひざの裏に湿疹が出てきた。やはり少し痒がる。

勉強に向かう気持ちが少しずつ出ている。

担任とは話し合ったが折り合いがつかず、子供には家でしっかり気持ちを受け止めるよう努力している。

子供自身は落ち着いてきている。身体が元気になってきたからか、学校の様子はあまり気にしていないように見える。

[まとめ]

咳や鼻水という排出から、皮膚からの排出に向かっているので、引き続き相談会の中で症状をサポートしています。

相談会を通して、肝臓、腎臓、腸、骨という大きな臓器のサポートをしながら、適切なレメディーをとることによって、エネルギーの過不足を補っていったことにより、子供らしいのびのびとした本来の姿が見られるようになったのだと思います。

体温が上がり、明るく元気になり、病院通いが減り、その中で、夫や祖父母にも、薬を使わなくても、もう少し様子を見てみようという気持ちが生まれてきたとの嬉しい報告がありました。

母親も、看護師でありながら、薬を減らし、自分で基本キットを使いこなし、自信を付けて行ってくださいました。

ホメオパシーを全く知らなかった人にも、1年程という時間で、ホメオパシーの治癒の恩恵が届いたことに深く感動したケースです。

カテゴリー：[セルフケア・子育て・身近な症状] [子供] [医原病・薬害]